

人類の課題に新たな
〈知〉をもって挑む

Graduate School of **CoreEthics** and Frontier Sciences

「核心としての倫理」(Core Ethics) を軸に、**公共、生命、共生、表象**の四つのテーマのもと、新しい研究領域を創出します。

立命館大学大学院 先端総合学術研究科 (2025 年度)

<http://www.r-gscefs.jp/>

先端総合学術研究科の教育理念

先端総合学術研究科先端総合学術専攻は、現代の諸科学分野に共有された主題群を「プロジェクト研究」によって追求することを通じて、新たな研究領域の創出を担う先端的で総合的な知の探求者、制作者としての研究者を養成することを目的としています。

本研究科は、先端的なテーマを総合的に研究し、研究者を養成するために、2003年4月に一貫制博士課程の独立研究科として開設されました。本研究科では「21世紀における公共性」（以下「公共」）、「争点としての生命」（以下「生命」）、「共生の可能性と限界」（以下「共生」）、「表象文化における伝統と技術」（以下「表象」）の4テーマ領域を設定し、「善き生のための再構築」を目指してきました。これらのテーマ領域の設定は、各領域の規定に共通する問いの源泉として「核心としての倫理（CoreEthics）」を置かかちで、研究科全体の教育目的そこに収斂させるような工夫をカリキュラムに反映させています。

人材育成目的と先端総合学術研究科の3ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）



一貫制のプロジェクト型大学院

——ディシプリンからテーマへの転換

■ 特色

多様なプロジェクトが織りなす新しい大学院教育

立命館大学の研究所・センター群は、学生が教員とともに課題とテーマを設定し学術研究を発展させるプロジェクト研究によって多くの成果を上げてきました。先端総合学術研究科は大学院教育とプロジェクト研究を結びつけることで、ディシプリンを横断し現代社会の要請に応じられる研究者の養成を行います。

カリキュラムは、①アカデミック・リーディングを学ぶ「基礎講読科目」、②4つのテーマ領域の文献を読みこなす「応用講読科目」②4つのテーマ領域の専門知識を学ぶ「主題別科目」、③研究のアウトプット、調査方法や研究倫理を学ぶ「サポート科目」、④テーマ領域ごとの研究の実践的な発表・討議の場となる「プロジェクト科目」に分かれています。プロジェクト型の教育・研究システムでは、各教員の「個別プロジェクト」が全科目の運営に反映され、専門分野のディシプリンにそって個別具体的に学ぶのではなく、テーマを横断した知を得られることが特徴です。

それ以外に、合同研究会やフィールド調査など、教員や院生の自主的・個別的なプロジェクト形成を通じて、新たな研究の潮流を生み出すことを目標とします。また研究会は専任教員を中心に学内外の第一線の研究者たち、さらにそのときどきのゲスト参加者を交えて開催され、研究ネットワークを形成します。

院生は、1, 2回生には研究の基礎的な力を身につける勉強をしながら、こうした研究会やプロジェクトに参加します。1, 2回生に履修する「プロジェクト予備演習Ⅰ・Ⅱ」は、各テーマ領域やプロジェクトに密接に関連した専門知識を有する教員のもとで、基礎的な研究手法を身につける科目です。第4セメスター以降にはプロジェクト担当者である専任教員が受け持つ「プロジェクト予備演習Ⅲ」も加わり、博士予備論文に取り組みます。

博士予備論文の審査に合格すると、その院生は正式な共同研究者として、プロジェクト研究そのものの運営にあたって中核的な役割を果たすことになります。すなわち、計画的に研究を推進する日々の活動の一翼を担いつつ、研究会や学外の諸学会等における成果発表を着実に積み重ねていくことになるのです。

公共 21世紀における公共性

身体をめぐる言説・運動・政策の変容過程を検討しつつ、断片的な生のあり方を拾いあげながら、デモクラシーと生存のための社会システムの公共性を探ります。

共生 共生の可能性と限界

多大な犠牲をともなう不完全な共生実験であった人間の歴史を批判的に遡りつつ、未来に向けて、そうした犠牲を伴わない生命と生活の可能性を構築する方途を探ります。

生命 争点としての生命

生命科学・医療・福祉をめぐる科学的知識・技術の歴史的検討、倫理的諸問題の整理を通じて、生命・生殖・病・死を総合的に探求し、新しい生命の理解と倫理の構築可能性をひらきます。

表象 文化と芸術の表象論的分析

文化と芸術の諸事象を表象論的観点から読解・分析します。技術、歴史、思想、実践への理解を主軸とし、創造と受容の場、諸々の文脈、メディアといった問題系へとアプローチします。

2025年度より新カリキュラム実施

| 分野 | 科目名 | 単位数 |
|----------|--------------------------|-----|
| 基礎講読科目 | 超領域講読演習 | 4 |
| 応用講読科目 | 公共講読演習 | 2 |
| | 生命講読演習 | 2 |
| | 共生講読演習 | 2 |
| | 表象講読演習 | 2 |
| 主題別科目 | 公共論 | 2 |
| | 生命論 | 2 |
| | 共生論 | 2 |
| | 表象論 | 2 |
| | 特殊講義 | 2 |
| サポート科目 | デジタルデザイン | 2 |
| | アカデミックライティング | 2 |
| | リサーチマネジメント | 2 |
| プロジェクト科目 | プロジェクト予備演習 I・II・III | 2 |
| | 超領域実践プロジェクト | 2 |
| | 情報生産プロジェクト演習 I・II・III・IV | 2 |
| 他大学院科目 | 単位互換履修科目 | 1～4 |
| 大学院科目 | 大学院コーオプ演習 | 2 |

本研究科は次世代研究者の多様なあり方に答えるために、研究プロジェクトに取り組むスタンスと各ステップを中心とする「プロジェクト科目」に、これまでも必要不可欠であったプロジェクト予備演習を開講します。博士予備論文執筆後に査読論文や博士論文執筆に取り組む3回生以上の大学院生各自の研究を共有・議論する場の重要性を受け、これまでその機能の一部果たしてきたプロジェクト演習を『情報生産プロジェクト演習』としてさらに充実させます。早くから多様なプロジェクト研究を経験し、実行する機会や分野横断的ネットワークづくりの機会を増やすために、多くの研究プロジェクトが行われている研究センター・研究所などとの連携を図り、**研究と教学を一体化した新科目『超領域実践プロジェクト』**を開講します。

一貫制博士課程

前期課程相当

1回生 2回生

- ・博士予備論文構想発表会発表
- ・博士予備論文合格
- ・30単位取得

2年以上在学した者が、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した上で退学する場合に修士学位を授与することがあります。

後期課程相当

3回生 4回生 5回生 ~

- ・博士論文構想発表会合格
- ・プロジェクト演習8単位
- ・論文（査読付学術雑誌）3編以上掲載

博士論文提出

審査合格

博士号授与

3年次転入学※（修士号取得者）

※修士号取得者は入学時に24単位まで単位認定する場合があります。修士号取得以外の入学資格で入学した場合、1回生入学者と同様に本研究科で30単位以上単位修得する必要があります。

教員紹介

4つのテーマ領域で専任スタッフがディシプリンを超えて新しい研究領域を創出します

個人個人の日常的な生き方から、国家や共同体レベルの政策決定まで、さまざまな次元を視野に入れながら、わたしたちは、コア・エシックス（核心としての倫理）にふれる4つのテーマを選びました。そして、テーマごとに「科目としてのプロジェクト」が設置され、さらに各教員が中心になって運営する「個別プロジェクト」が設けられるのです。

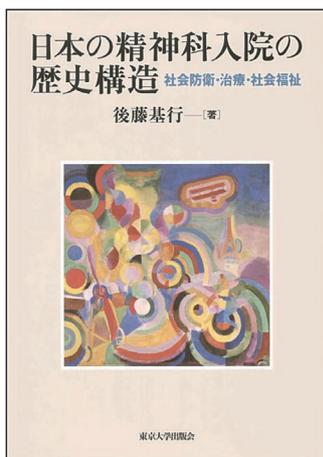


後藤基行<公共>

歴史社会学・精神医療史

医療・歴史・アーカイブズ —— 後藤基行

現代社会において医療は、人間にとって不可欠なシステムである。しかしながら医療は、純粋な医療の要請からのみならず、人々の生活上の要求、政治やあるいは社会的恐怖からも制度化されることがある。医療と福祉や救貧、社会防衛との接近である。医療の「公共性」を考えるためには、医療の先端的なイメージにとらわれるのではなく、医療のもつ歴史性を理解する必要がある。私は、歴史を深く知るためではなく、現代の問題の本質を把握するために歴史を知りたい。そのために医療者や行政、患者が作成した資料が必要だが、日本の医療アーカイブズは貧弱である。資料を残しながら研究する方法論を制度化していきたい。



立命館大学研究者学術情報データベース

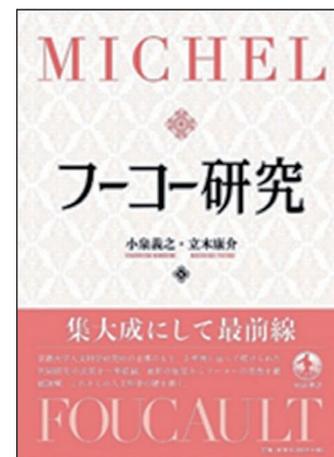


小泉義之<生命>

哲学・倫理学

生命論の理論的争点 —— 小泉義之

哲学・倫理学を基礎に、小泉が中心となって、近現代において生命と生物が理論的にどのように認識され、文化的にどのように表象されてきたのかを整理して、新しい生命論を展望する。また、現代生物学がいかなる理論的課題に直面し、現代文化がいかに生と死を表象しているかを整理し、生命と生殖と病と死について総合的に探究する。そして、現代的な生物観ひいては人間観を構築することを目標とする。



立命館大学研究者学術情報データベース



松原洋子<生命>

科学史・科学技術論

生命と技術の倫理 —— 松原洋子

科学史・科学技術論を基礎に、松原が中心となって、生命科学・医療・福祉に関する科学的知識および科学技術をめぐる諸問題について広範な資料収集をおこない、適切な研究法を採求する。個体レベルでの生命の保持や能力の増進、次世代に関わる生殖や出生の管理、個体間での生体組織・機能や情報の交換、個と全体の関係が問われる人口・生態系・進化など、様々な位相に注目しながら、科学と技術の抱える問題を、整理・検討する。そして、こうした問題に接近するための生命論と、あるべき新しい倫理の構築をこころみる。



立命館大学研究者学術情報データベース



美馬達哉<生命>

医療社会学

医療・身体性・グローバリゼーション・思想

—— 美馬達哉

人間の身体は、私的な領域に属しているだけでなく、現代社会においては、バイオテクノロジーによって人格と切り離された独自存在—臓器やiPS細胞など—として公的領域のなかに組み込まれつつある。こうした意味で、身体と公共という論点は現代社会において重要である。今後の研究計画としては以下を考えている。

1. フーコーの権力論を批判的に継承しつつ、リスクに着目して、現代のグローバリゼーション状況のもとで身体性がどう変容しつつあるかを分析していく。
2. 医師という経歴を生かして、理系と文系の両方の分野を横断的に取り扱って、公共性を再考していく。
3. 脳可塑性の臨床応用とその社会的含意について、オシロロジーの観点から検討していく。



立命館大学研究者学術情報データベース



戸谷洋志<生命・共生>

哲学・倫理学

責任概念をめぐる探求——戸谷洋志

現代社会における責任概念のあり方を再検討していきます。科学技術を利用する人間の責任は、その影響力が増大することに伴って、ますます重視されつつあります。その一方で、人間の生命それ自体が、技術的な操作の対象になることで、人間の責任能力そのものが、科学技術からの影響を受けます。そうした連関のなかで、人間の責任をどのように捉え直すべきなのか、という問題を、現代思想を手がかりにしつつ、個別の社会課題を念頭に置きながら、検討していきます。それによって、責任概念を切り口としながら、他者との共生を促すために、社会課題を解決するための規範的指針を構想することを目指します。



立命館大学研究者学術情報データベース

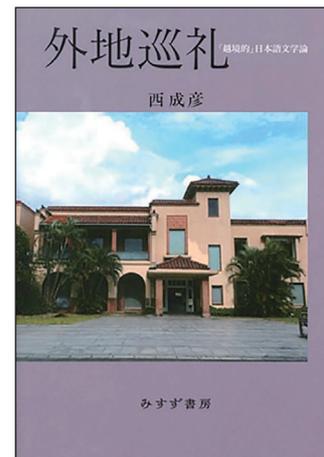


西成彦<共生>

比較文学

カストロフィと文学——西成彦

人類の歴史はかずかずの「災厄」に彩られてきた。自然災害であれ、戦争や人災であれ、災害はけっして一様にひとに襲いかかってくるわけではない。しかも、加害者側に立って責任を引き受けなければならないことが往々にしてある。そうしたなかで、「カストロフ」の危険にさらされてきたひとびと、および、そこに加害者・傍観者として関わってしまったひとびとの経験と記憶は、その一部が「記録」に残されるが、それでも足りない部分は「文学的な想像力」にゆだねるしかない。文学の可能性と限界を考える。



第70回読売文学賞〈随筆・紀行賞〉受賞



立命館大学研究者学術情報データベース



竹中悠美<表象>

芸術学

社会におけるアートの作用機序 —— 竹中悠美

芸術学を基礎に置き、社会の中でアートに託された機能とそれを実践するための制度的・技術的システムを検討する。アートがパブリックな文化財として「消費」される現代の資本主義社会において、われわれとアートを取りもつ主たるシステムは美術館やアートセンターという場所と情報メディアである。そこで、展覧会、アートプロジェクト、文化政策が企図する文化活動の方法と課題、およびメディアにおけるその扱いを検証することによって、アートの意義を問い直す。



立命館大学研究者学術情報データベース



千葉雅也<表象>

哲学・表象文化論

哲学と批評のあいだで思考する —— 千葉雅也

表象文化の多様なケースを併せて考察するために、哲学を媒介として芸術・文化・社会・欲望の諸理論を交流させ、そして、領域横断的な論述の方法、および批評的なスタイルの修辞学を検討する。各人の問題意識に応じた「書く」方法を共に考えていきたい。



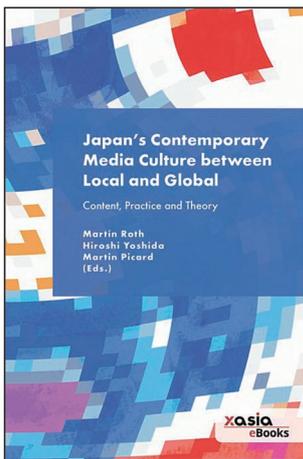
立命館大学研究者学術情報データベース



マーティン・ロート<表象>
ゲーム・デジタルカルチャー

ゲーム・デジタルメディアを探検する —— マーティン・ロート

遊びとデジタル技術が組み合わされることにより生まれる表現空間・インタラクション空間の可能性と限界を検討する。日本のゲームを中心に、その空間においてどのような想像力・文化が発生し、あるいは現代社会の諸問題がどのように表出し、議論され、解決方法が探られているかを批判的に分析する。そのためには各空間に触れると同時に、これらの空間の社会的・経済的・技術的・制度的な背景を理解する必要がある。表象文化のみならず、現代社会は、デジタル技術により大きく変化しつつある。ゲーム・プラットフォーム・デジタルメディア空間はその変化を考えるための一つの伴となるはずだ。



立命館大学研究者学術情報データベース

院生プロジェクトの一例



パートナーシップ委員会の取り組み

先端総合学術研究科20周年記念企画

衣笠研究科交流フォーラム

つながる院生・ひろがる研究

6つの研究科が集合！ 分野を横断する 研究でつながろう！

- 文学研究科
- 法学研究科
- 映像研究科
- 社会学研究科
- 国際関係学研究科
- 先端総合学術研究科

研究の幅を広げたい
大学院生はもちろん
実は研究に興味がある
学部生や
教員も大歓迎！

2023年12月15日(金) 17時30分～19時
於 諒友館食堂
(立命館大学衣笠キャンパス諒友館1階)

17:30 開会の挨拶 趣旨説明

17:50 ポスターセッション

研究科紹介×6
6つの研究科それぞれで学べることや教養方針などを紹介
授業の雰囲気や大学院生の自主研究会など耳より情報も・・・？

個人研究発表×23
大学院生が自身の研究の得意さや可能性を紹介
ポスターの前に立つその人こそ、運命の研究仲間かも・・・？

18:50 閉会の挨拶

ポスターセッションとは？
発表者が伝えたいことを一枚のポスターにまとめて
関心し、興味を持って対面して説明する形式の研究イベントです

カフェ・テールあります
研究交流だけでなく院生生活情報にかかわる相談
など、気軽に&ゆっくり研究交流したい方におすすめ

主催 立命館大学大学院先端総合学術研究科パートナーシップ委員会

充実した研究支援体制

- ライティング指導室（創思館 307）には、研究指導助手と英語論文指導スタッフが常駐しており、以下の業務を行っています。
- 日本語論文の書き方および添削指導（研究指導助手・日本語論文指導スタッフ）。
 - 英語論文の書き方および添削指導（英語論文指導スタッフ）。
 - 先端総合学術研究科主催のシンポジウム・研究会の企画・運営に関わる業務。
 - 『Core Ethics』（研究科紀要）の編集、研究科彙報の編集、研究科 Web サイトの管理、院生プロジェクトの運営の支援など。
 - 日本学術振興会特別研究員等申請書作成のサポート。
- また本研究科の博士論文の閲覧受付、図書・備品の貸し出し、『Core Ethics』・彙報の配布等も同室にて実施しています。

院生のための奨学金・研究活動助成制度 (大学全体の制度は大学 HP <大学院キャリアパス推進室>を参照のこと)

立命館大学での奨学金・研究助成制度（QR コードから参照してください）

1) 一貫制博士課程 1.2 回生（博士課程前期課程相当）



主なもの

- 1 年次対象成績優秀者奨学金（年額 10 万円）
- 2 年次対象成績優秀者奨学金（年額 10 万円）
- 大学院博士課程前期課程学生会奨学金
- 大学院博士課程前期課程研究実践活動補助金
- 学生研究会活動支援制度
- 大学院家計急変奨学金
- 日本学生支援機構大学院在学生対象奨学金、等

2) 一貫制博士課程 3～5 回生（博士課程後期課程相当）



主なもの

- 研究奨励奨学金
S（年額 50 万円）、A（年額 50 万円）、B（年額 25 万円）
- 後期課程学生会奨学金
- 博士課程院生研究支援奨学金
- 研究会活動支援制度
- 博士論文出版助成制度
- 日本学生支援機構大学院在学生対象奨学金、等

研究者としてのキャリアパス支援

①日本学術振興会特別研究員（DC1、DC2）【在校生】

採用されることが一つのキャリアとなる日本学術振興会特別研究員【国の研究者養成制度。月額 20 万円の研究奨励金が支給されます。DC1（3～5 回生の 3 か年）DC2（4～5 回生の 2 か年）】に多くの先端院生が採用されています。

この特別研究員に採用された場合は本学の研究奨励奨学金 S も合わせて支給され、学費額相当分（年額 50 万円）を受給できます。それらを合わせると年額 290 万円もの支援を受けることができます。先端研はこの特別研究員に採用されている人数が本学の中で最も多いため、研究奨励奨学金 S 受給者も最も多くなっています。

| | |
|---------|-----|
| 2018 年度 | 2 名 |
| 2019 年度 | 4 名 |
| 2020 年度 | 3 名 |
| 2021 年度 | 4 名 |
| 2022 年度 | 5 名 |
| 2023 年度 | 4 名 |
| 2024 年度 | 1 名 |

② RARA 学生フェロー※立命館先進研究アカデミー（Ritsumeikan Advanced Research Academy / RARA）

本学の先導的・先進的研究拠点の形成に向けてリーダーシップを発揮することが期待される中核研究者の集まり（アカデミー）のことです。その中で次世代の研究者として活躍が期待される「RARA 学生フェロー」2024 年度は RARA × SPRING】60 名程度（1 年次 / 40 名程度、2 年次 / 10 名程度、3 年次 / 10 名程度）〈【RARA × BOOST】1～3 名を含む〉に下記の援助があります。

- 【RARA × SPRING】
- ①研究活動支援金 月額 18.5 万円（年額 222 万円）（課税対象）
 - ②研究費 年額 34 万円（上限）
- 【RARA × BOOST】
- ①研究活動支援金 月額 18.5 万円（年額 222 万円）（課税対象）
 - ②研究費 年額 168 万円（上限）



立命館先進研究アカデミー
(RARA)

最近の修了生の博士論文テーマ

- 視覚障害者の美術鑑賞体験に関する考察：美術館における歴史的経緯と方法論の分析から
- 退院援助に潜在する社会問題—地域完結型医療時代の医療ソーシャルワーカー—
- 分水嶺を歩む思想家イヴァン・イリイチ
- 視覚に障がいのある女性が子どもを妊産み育てる経験
- 訪問看護をめぐる看護政策の変遷と課題
- 開かれる自閉—医者・心理学者・当事者のポリフォニー
- 近代日本における結核管理—病原菌と人間との関係をめぐる歴史研究
- 同人雑誌『月映』の青年画家たち—生と死の分有による共同的創造—



本研究科博士号取得者一覧
(158名 2024年4月現在)

修了生の活躍

主な就職先 (アカデミックポスト以外も含む)

青森県立保健大学、一般社団法人わをん、稲盛財団学術部、岩手大学、江副学園、大和大学白鳳短期大学部、大阪公立大学 大阪樟蔭女子大学、大阪大学、大谷大学、岡山医療専門職大学、沖縄愛楽園交流会館、神奈川大学、金沢大学、株式会社ゆう建築設計、中国・河北经贸大学、韓国・光州大学、社会福祉専門大学院、韓国・保健社会研究院、韓国・ルーゲーリック病 (ALS) 協会、関西大学、狂言師、京都看護大学、京都光華女子大学、京都産業大学、熊本大学、公益財団法人東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京、甲南女子大学、台湾・康寧大学、神戸学院大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸大学、国立国会図書館、国立障害者リハビリテーションセンター、滋賀医科大学、臨床研究開発センター、滋賀医科大学、聖泉大学、滋賀県立大学、滋賀県立美術館、静岡大学、四天王寺大学、特定非営利活動法人社会理論・動態研究所、湘南医療大学、台湾・精能醫學、公益財団法人世界人権問題研究センター、中国・大連工業大学、千葉県千葉リハビリテーションセンター、千葉商科大学、千葉大学、中部大学、日本国際学園大学、帝京大学、天理大学、東京藝術大学大学美術館、東京女子医科大学、東京福祉大学、東京薬科大学、東京山手メディカルセンター、とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ、(株) トライグループ トライ式高等学院、長野大学、名古屋市立大学、南山大学、日本社会事業大学、日本大学、日本大学短期大学部、日本福祉大学、羽衣国際大学、広島修道大学、福岡教育大学、佛教大学、台湾・文藻外国語大学、三重県立看護大学、宮城学院女子大学、桃山学院大学、山梨大学、有限会社ケアサポートモモ、立命館大学、特定非営利活動法人 ALS しがネット、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院、早稲田大学 等

博士論文などをもとにした書籍の刊行

受賞作

- 川口有美子 (2012年度修了) 第41回大宅壮一ノンフィクション賞、
『逝かない身体：ALS的日常生活を生きる』(2009年、医学書院)
- 川端美季 (2011年度修了) 第2回法政大学出版局学術図書刊行助成、
『近代日本の公衆浴場運動』(2016年、法政大学出版局)
- 山本由美子 (2012年度修了) 第1回生存学奨励賞審査員特別賞、
『死産児になる：フランスから読み解く「死にゆく胎児」と生命倫理』
(2015年、生活書院)
- 由井秀樹 (2013年度修了) 2015年度日本科学史学会学術奨励賞、
『人工授精の近代：戦後の「家族」と医療・技術』(2015年、青弓社)
- 矢野亮 (2014年度修了) 第2回生存学奨励賞、
『しかし、誰が、どのように、分配してきたのか：同和政策・地域有力者・都市大阪』
(2016年、洛北出版)
- 萩原由加里 (2009年度修了) 日本アニメーション学会奨励賞 2016、第13回木村重信民族芸術学会賞、
『政岡憲三とその時代：「日本アニメーションの父」の戦前と戦後』(2015年、青弓社)
- 小西真理子 (2013年度修了) 第4回生存学奨励賞、
『共依存の倫理：必要とされることを渴望する人びと』(2017年、晃洋書房)

2023年以降に刊行された書籍の一部



研究者としてのキャリア

立命館大学衣笠総合研究機構専門研究員採択者数 (修了生)

- 2019年度 2名
- 2020年度 2名
- 2021年度 1名
- 2022年度 2名
- 2023年度 3名
- 2024年度 1名



立命館大学衣笠独立研究科事務室

TEL: 075-465-8348 FAX: 075-465-8364

E-Mail: doku-ken@st.ritsumeai.ac.jp

先端総合学術研究科に
ついての詳細は

立命館 先端

2024.5.20.200

